

平成30年度第3回当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 会議要旨

- 1 日 時 平成30年9月4日（火） 14時30分から16時00分
- 2 場 所 当別町役場 大会議室
- 3 出席委員 山田委員長、黒澤副委員長、川村委員、宮崎委員、佐々木委員、原口委員、田口委員、佐藤委員
- 4 町出席者 事務局：江口部長、長谷川課長、永井係長、井田主任
- 5 傍聴者 4名
- 6 会議要旨

(1) 委員長挨拶（要旨）

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、また、台風が接近している中お集まりいただきありがとうございます。本日の会議ですが、7月の会議終了後、皆様からヒアリングを行うプロジェクトにつきまして提出していただきました。その中で2つのプロジェクトを選定いたしました。本日は選定した各プロジェクトについて、担当部局から説明を受けまして、推進委員会として意見をしていきたいと思っています。

また、前回までに皆様からいただいた各プロジェクトに対する意見を意見書という形で取りまとめ、当別町に提出していきたいと思っております。本日のヒアリングを含めて意見書の内容について審議していただきまして、文言の加筆や修正等を行い、当別町へ提出していきたいと思っておりますので、本日はよろしく申し上げます。

(議題)

(2) 選定プロジェクトの検証について

- ① <前回推進委員会での資料提出について>

別紙 ～永井係長説明

※質疑なし

- ② 資料1 ～三上道の駅室長説明

(黒澤委員)

当別町地域間交流拠点施設指定管理事業とはどのようなものでしょうか。

(三上室長)

指定管理事業の概要ですが、町の公共施設を民間のノウハウを活用して施設を運用し、効率的・効果的に施設を活用するというものが指定管理者制度でございます。今回の場合、当別町が施設を建設し、民間のノウハウを持ち合わせる株式会社 tobe に施設の管理を任せています。ここで指定管理料というものが、町が運営をした場合に要する経費、要する収入というものを条例上で㎡当たりの単価がございますので、試算をした場合に収入と支出の差額の相当分を指定管理料という形で指定管理者に支払う仕組みです。民間が活用する部分と、道の駅においては、道の駅の登録を受けるためにトイレは24時間開放、駐車場も24時間自由に駐車できるようにしなければなら

ないなど、公的な機能も持ち合わせているので、そういった部分も考慮して本来の道の駅としての公の施設という部分を充足するための経費、町が経営した場合に余分にかかる経費を指定管理料として支払います。指定管理者は、指定管理料をもらいながら施設の管理を行い、自助努力によってプラスになった部分は指定管理者の収入となります。そういったインセンティブを働かせることで施設を有効に活用させていこうという制度が指定管理者制度となっております。

(原口委員)

先ほど、冬の来場者の落ち込みが激しいということで、今年度から新しいコンテンツというお話がありましたが、実際に考えているアイデア等がありましたら教えていただきたい。

(三上室長)

昨年度は期間限定のメニューやイベント、クリスマスに合わせた装飾等を行ったが、それだけでは集客につながらないということで、町のPR事業の一つとして、冬に特化したターゲットを小さな子どもが遊びたくなるようなコンテンツを揃えた事業を展開していきたいと思っております。現在、考えているのがスコープなどを揃えて、広場の雪で遊べるようなもので、子どもがお父さんお母さんに土日にちょっと連れていってもらいたくなる場所というところに町のPR事業を絞ろうと考えております。その他にクリスマスの限定メニューやスウェーデン王国レクサンド市では年1回、日本の映画を上映するという取り組みをしていると聞いておりました。そこで当別町でも子ども向けのショートフィルムを上映するイベントも考えております。イメージしているのは、例えばポップコーンや温かい飲み物を買っていただいて親子で楽しめるようなもので、12月ぐらいから本格的に動き出したいなと思っております。加えて、冬場は農産物がなくなる時期でもありますが、姉妹都市である愛媛県宇和島市はみかんの最盛期となりますので、みかんの物販と宇和島市で行っている特徴的なイベントを北海道の冬に開催するのも面白いと思ひまして協議をしている状況でございます。

(佐々木委員)

地域商社推進事業の33,000千円の内訳と特産品の開発や観光客の周遊というのは具体的にはどのようなことをしているのでしょうか。

(三上室長)

33,000千円の内訳については国費が1/2になります。

事業内容については、平成29年度の取り組みで紹介しますと、用途として4つに分けています。地域特産品の開発・改良、国内販路の拡大、地域特産品・農産品の海外販路の拡大、インバウンド観光客の周遊促進です。インバウンド及び観光の周遊促進につきましては、道の駅ができてから外国人が来ていない状態で、施設として外国人を受け入れるための表記やパンフレットが全くない状態でしたので、昨年は館内の案内、パンフレットといった最低限必要なものを交付金を活用して整備をさ

せていただいております。

また、台湾が親日ということと、道内にインバウンド観光客として来ているということから、台湾に赴いてどういった観光のコンテンツがあれば観たいのかという部分のアンケート調査と台湾の旅行代理店へのヒアリングも行っております。

さらに、商品の拡販という部分もございますので、実際に当別町で売れそうなものを現地で試食・試飲していただいてその効果検証や価格設定の検証について、地方創生推進交付金を活用しております。

今年につきましても引き続き、台湾をターゲットにインバウンドをやっていければと考えています。国内でもインバウンド観光客を担当している旅行業者がありますので、運営をしている株式会社 tobe のほうで営業をかけながら、例えば昼食といったコースにできないかといった交渉をしております。

(宮崎委員)

平成28年の道内旅行の目的でいうと、道内観光客の目的の1位は道の駅巡りで、半分ぐらいの人が道の駅を目的にドライブをしているのではないかという状況になっています。道外客についても、1割ぐらいが北海道の道の駅巡りを目的に旅行をしています。そうした中で道の駅の当たり前気質が高まってきている状況なんだろうと思っています。北海道では正に冬季の対流と、子どもというのは町民だけではないと思いますが、地元に使われる施設になるということなのかなということがよく言われています。そういう意味で冬期間に子どもたちが遊べる場所にするということはすごく大事とされていて、良い方向で取り組まれていると思っています。本日も道の駅を見ってきましたが、お年寄りの方がたくさん利用されていて、家以外のたまり場になっているのかなと思いました。

外国人の話があったので、現在、外国人のドライブ観光を担当しておりますが、来道されている外国人旅行者の割合をみると1/4ぐらいが中国、1/4ぐらいが台湾、1/4が韓国、香港、タイ、マレーシアではほぼアジア圏で3/4を占めていて、その内ドライブしている人が台湾、韓国、香港になるのかなと思います。開発局で自動的にアプリをダウンロードした人のGPSデータを取っているのですが、道の駅沿いの国道を通っている外国人の方は確実にいます。札幌圏には滞在していたりするんですけど、当別町内に30分以上滞在している外国人の方は拾えてなくて、通過している人はいるということなので、道の駅そのものの認知度も上げていかなければならないと思っていますんですけど、北海道は観光スポット間の移動距離が長いので、ドライブの時間が長いということが課題になっていて、道の駅は色々な場所にあるので休憩だけでなくものを食べられたり面白いところだよと少しずつ認知度は広がってはいっていると思います。実際に通っている外国人がいるので、止まってもらってお金を落としてもらうということが1つと、せっかく道の駅に来たら、その人を当別町のどこに連れて行って何を消費してもらおうかというところをぜひ考えていけたらいいなと思って話を

聞いていました。

(三上室長)

道の駅を手掛ける前に寒地土木研究所というところが行った調査で道の駅の滞在時間が30分を境に客単価が大きく動き、客単価が30分を超えると1,000円の大台となります。もともと町としては客単価1,000円を目指しておりますが、今の数字で行きますとtobeから聞いている数字で客単価800円と聞いております。ここをどうするかというところが道の駅の経営安定に繋がるのかなと思っています。インバウンドですが、現在、考えているのが最近インバウンドの方は旅行会社のバスツアーというよりもレンタカーを使われてかなり移動されているということを知っておりますので、千歳市役所のお話によると千歳市内にレンタカー業者が増えてきているということもあるので、当別町としてはそういった方を狙ってレンタカー事業者と組んで道の駅のPRをするというのも1つの方法と思っています。レンタカーに加えて何が必要かというところ、玄関口である新千歳空港でどれだけ当別町をPRするかということだと思います。それとお客様が来られた時に道の駅として何をおすすめとするのかという部分と、町内周遊もございますので、観光事業としてビジネスになるようなモデルも並行して、役場全体の課題かと思いますが、そういったものをうまく組み合わせて道の駅を基点にして当別町内をどれだけ周遊させて30分以上滞在させ、客単価1,000円をとるか。これらはすぐに解決できる課題ではありませんが、30年～32年と今後、着実に進めていかなければならないと認識しております。

(山田委員長)

来場者数は予想よりも上回ったが売上額は想定に届かず、客単価が500円を切っている状況だが、できれば1,000円に持っていきたいという話でしたが、まず、客単価が上がらなかった要因は何かということと、30年度については目標は100万人、売上は5億だと客単価は下がるがその辺は何かあるのでしょうか。

(三上室長)

客単価の議論につきましては、一般的な客単価というのはレジ通過をしたもので割り返したものが客単価といたしまして、これが800円ということになります。今お話をしている500円未満という数字は何が悪いのかということと購入率が低いというところがあります。来ていただいた方のうち、道の駅の駐車場に止めてお手洗いに行く方もいれば道の駅センターハウスの様子を見る方もいます。その中で実際に買っていただいた方が少ないので、単純に割り返すと500円ということになっております。購入率をどうやって上げるかが今後の課題と思っております。もちろん、レジ通過者から割り返す客単価800円というものも整理しなければならないのですが、まずは、来場したお客様の層にあわせて1つでもどうやって購入動機につなげるかというところが大きな課題と思っております。道の駅に行きますと、客動線と商品の陳列に問題があるのかなと考えているところもありますし、店舗のサイン等も見ますと、お客様

が一番安心するのは、お店に近寄らなくても何が売っていて、いくらかというのが大きく表示されていることだと思います。近くに行かないと何が売っているかわからないけれども近寄ると買わなきゃいけないのではないかと思われ、お客様が離れて行ってしまいます。最近はテイクアウトコーナーでも価格表示ですとか何が売っているのかを写真にしたり少しずつ努力しておりますので、まずはそういった基礎的な部分をどうするかということが1つと、やはりここに来たらこれが目玉だと、今ですと一久大福堂のカップ団子が非常に好評でして宝物ではありますが、それに加えて別な新商品とおすすめの商品というものをいかにお客様目線で提案できるかというのが客単価を上げるうえでのポイントと思っています。それと、ついで買いといいたましようか、団子を買ったらこれだとか、商品提案を tobe がする際にもこれを買ったらこれもセットで買ってもらえるとか、商品提案が出来ますですとか、最近はスーパーでも間違いないという戦略をとっていますので、そういった部分もスーパーやデパートの売り方の戦略を、町の職員もそうですし、tobe も一緒に勉強しながら少しでも上げていきたいと考えております。

(黒澤委員)

夜間はこういった管理体制をとっているのか。

(三上室長)

夜間は管理人は設置をしておりますが、セキュリティで管理をさせていただいております。駐車場は24時間自由に休憩ができる場所でありますので、一部を除外したりといったことができない状況にあります。

近隣の道の駅ともお話をすると、車で集団で集まって集会をやられたりだとかあるので、どうやってマナーを守っていただくか、というところが道の駅の課題かなと思っています。ただ、近々ではありませんが、道の駅の駐車場の中にも夜間のうるさい行為はだめですよといった表示の看板は整備をしなければならないかなと思っています。それとキャンピングカーが夏休み中に多く来られていて、見ているとトイレを自分の洗面台のように使われていく方もいらっしゃいます。トイレの中に監視カメラはつけられませんが、通るところに監視カメラを設置して見られているんだぞというアピールはしているんですけど、みなさんが公共施設では自由に使えるという部分を超えて度を過ぎたところもありますので、マナーを守っていただく看板といった注意喚起が対応策かなと考えているところでございます。

何度かマナーの悪い方を見かけたときに声掛けをしましたが、ご本人が悪いという意識がないものですから、違うトラブルに発展しそうになることもありますので、北警察署とも話をさせていただいて、例えば、そういう事象が起きた時にまずは管理者としての意思表示をしてくれると警察としてもフォローアップをしやすいと聞いておりますので、最終的には北警察署の力を借りながら特定の時間に来ているのであれば、管理者側から警察に話をさせていただいて定期的に巡回をしていただくということも

相談をしているところです。

また、最近聞いているのが車のツーリングチームみたいなものがありまして、定期的な集会に当別の道の駅の駐車場を使い始めているような雰囲気があるので、野放しにするとまずいなと思ひまして、看板によるルールを表示と警察への協力を早めの手を打とうと思っています。30年度に予算をつけさせていただいて、防犯カメラを三角屋根に駐車場が全部写るようにしていますので、何かトラブルがあった場合はそれを確認させていただいて対応できるようにしております。

(山田委員長)

道の駅プロモーション事業について、平成30年度はどのようなことを実施するのか。

(三上室長)

冬に特化して子どもが道の駅に来て遊べるような雪で作った滑り台ですとか、雪を使ったイベントを行うということと、直売所を使って子ども向けのショートフィルム映画の上映を考えています。企画課サイドでも首都圏との連携事業において大学の力を借りて周遊促進事業を行うことにもなっております。メインは雪を使ってお客さんをお呼ぶというところに特化しようと考えています。

(田口委員)

参考として、決済手段としてQRコードを使ったシステムというものが中国ではやっていて、各金融機関と提携しているんですけど、道銀の場合はアリペイというところと提携してまして、導入コストがかかりません。ただ、使ったときにクレジットカードみたく5%の手数料が取れるんですけど、簡単に導入できますので、参考ということです。

② **資料2** ～山田企画課参事説明

(佐藤委員)

利用者の増加はどの部分ですか。

(山田参事)

西当別道の駅線の路線が増えましてその部分となります。

(佐藤委員)

西当別道の駅線について、9月で実証実験期間が終了するが、その後の計画はどうなりますか。

(山田参事)

9月までの実証運行の実績を踏まえて運行内容の検討を行うことが基本ですが、1年間という長期の実証運行の中で、通勤・通学の利用がありますので、実証運行後すぐにやめるということにはならないかなと考えており、当面は現行通りの運行を行いながら並行して実証運行の検証を行っていくと考えています。

(佐藤委員)

通勤時間帯の利用は多いと思いますが、問題は日中の時間帯だと思います。日中は便数も少なく実際の足にはなっていないと思います。基本的な要望は夜9時以降の運行です。JRの最終はかつては11時台であったが現在は12時台となっている。最終で帰宅する人たちの交通手段がなく、家族が太美駅まで迎えに行っている状況です。夏場はともかく冬場は厳しいので、その時にバスがあれば良い。多くの住民は札幌に通勤している人が多いし、遊びに来る人も公共交通がない、公共交通があれば住んでもいいという話があります。コミュニティバスになる前にスウェーデンヒルズで運営していた経緯があり、それが吸収されて現在のふれあいバスがある。スウェーデンハウスから850万を拠出しているが、この金額プラスアルファで我々が自主運行するとオンデマンド的な夜間運行が可能ではないかということもあります。ただ、利用者の要望も色々な意見が出てくるのは、その時の住民のニーズによるとと思います。例えば中高生の子供がいる家庭であれば6時30分から必要になると思います。通勤者が高齢化して駅までの送迎が大変となるとバスが必要となるなど、ニーズが一定にならないなどその時の家族の状況によって変化するので、実証運行が終了したときにアンケートを取る必要があると思う。当初、1年間だけでも小学生以下と65歳以下は無料にして利用率を上げたほうがいいのではと話をした。400円を払って道の駅に行く人はいないと思うし、家族となると400円×人数分となるので、さらにバスで行こうとは思はなくなる。

私も道の駅に行きますが、価格が高いという声がある。札幌方面からきている人たちはもう来ないという主婦層もいる。道の駅にはトラックやバスが多く利用率は高くなっているが、気になっているのが駐車場にガードマンがいないこと。札幌競馬場やスーパーの特売時にはガードマンがいて事故が起きていない。道の駅で事故はないのか。

(三上室長)

車同士の大きい事故はありません。

(佐藤委員)

道の駅には館内を案内する人がいないし案内の放送もない。経費がかかってもそういうサービスは必要だと思う。

(山田参事)

夜間運行については、住民からもそのような意見は聞いております。過去に「すいすいふれば」という事業を実施しましたが、当時の資料を見ると、やはり採算性の部分が難しかった経緯がありましたので、ふれあいバスとしても需要の確約がされていないものに路線を走らせるということは難しいと考えています。ただ、要望があるので検討はさせていただきたいと思います。料金については、今回は実証運行ということで、ふれあいバスの枠組みの中で実施しました。実証運行の実績を含めてアンケートも取りながら、利用促進等も要素に加えながら検討していきたいと思っています。

(三上室長)

警備員につきましては、経費がかかるということがありまして、また、道の駅のオープン後、短期間は警備をつけましたが、警備をつけることによる警備員とのトラブルが発生したりと別のトラブルを起こしてしまう傾向もあります。国道での事故が想定される場合は経費をかけてでも警備員が必要と考えていますが、最近は国道まであふれるような渋滞はないので、時間をかけることによって落ち着きができるかなと思っています。ただ、それ以外の2度と来ないといった声や高いといった声は聞いておりますので、高いと言っているのは物自体にその値段を払うということの理解がいただけていないということになりますので、商品の提供の店員の対応といったあたりは、運営している株式会社 tobe に対してもこういった意見があるということで、まずは、きちんとした接客と、事業者にそれだけの値段の味がするんだということを消費者の方に少しでもわかりやすいように伝えなければならないと考えています。すぐに解決できればいいんですが、お客様にそういったお話をいただきながら、切磋琢磨しながら改善するということもあると思いますので、お客様に喜ばれる施設づくりとして引き続き tobe とも話をしながら改善していただきたいと思います。

(山田委員長)

実証運行ということで、朝の時間帯や道の駅の利用人数など利用率等のデータはあると思います。平成31年度に向けて例えば時間帯は深夜便ですとか、道の駅の利用が少なければ減便するなど、検討はこれからしていくということですよ。要はこれはまちに人を呼び込むための定住交流の促進ということなので、転入者を増やして転出者を減らすということがこの中に含まれているので、公共交通の活性化のプロジェクトについてもその辺に留意して検討してもらいたいということと、利用料金の面も考慮してやってもらいたいと思います。

道の駅については、札幌から一番近い道の駅ということでPRしているんだけど、厚田も新篠津もあるということで、石狩管内の連携をしながらやるということも考えてもらえればなと思う。

(三上室長)

9月23日で1周年の記念イベントの準備をしているんですが、今年の春先ぐらいから北海道開発局の呼びかけで千歳、恵庭、石狩、当別、新篠津の道の駅を管理する者と役場の道の駅担当者が一堂に会して何か連携ができないかということで、開発局の声掛けでお話がありまして、石狩市の道の駅もオープンしてもうそろそろ落ち着くので、9月20日ごろに10月号じゃらんに石狩エリア道の駅グルメラリーということで、スタンプラリーみたいなものを各道の駅でやるということで、その期間は各道の駅でこのメニューを食べるとスタンプをいただけて、全部集まると景品がもらえるというのを石狩エリア周遊事業みたいな形で実施をさせていただけることになっております。当別の道の駅だけでは、交流人口を増やすことは難しく、また、長続きもし



ないです。1つの道の駅だけでなく管内で相乗効果のあるような道の駅を作っていたきたいというお話も出ました。そのようなことで、今回、具体的に進めるようになっておりますので、ご報告をさせていただきます。

(原口委員)

石狩振興局としてもご一緒させていただいております。石狩振興局で5つの道の駅で共通で使ってもらえるようなランチョンマットを作成しております。昨年、北海道150年事業の一環として、ブックカバーを作って紀伊国屋等で配布していたんですけど、そのデザインを使ってトレーに敷いていただいております。

(川村委員)

石狩管内の組合長会の中で、札幌市で行っていたハーベストランドの後継事業で管内の道の駅が連携してポスターを作ったりしています。信用事業のほうでもポイントを付加する取り組みをしております。

(3) 当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略に対する意見(評価)の取りまとめについて

**資料1** ～永井係長説明

(企画課長)

本日、2つのプロジェクトについてヒアリングを行いご意見をいただいておりますので、そちらにつきましても意見書に反映していきたいと思っております。

(宮崎委員)

立地適正化計画のところですが、同じ文言が2度出てきているので整理したいと思っております。「当別町版C C R C構想や駅周辺再開発構想に向けた立地適正化計画の策定にあたっては、将来の人口見通しを踏まえながら都市全体を見渡して、生活サービス機能や居住機能のあるべき姿を検討する必要があります。」にしたいと思っております。

(原口委員)

木質バイオマスのところですが、「木質バイオマスの実施については」とありますが、バイオマスについては利活用という表現をしますので、検討してください。

(事務局)

本日のヒアリングでいただいた意見と修正の文言を修正し、再度、照会をさせていただきます、ご確認をしていただき、最終版は委員長へ確認していただきたいと思っております。

(3) その他

(事務局)

次回の委員会につきましては、3月末を予定しております。改めて日程調整をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

(以上)